

地域の力でいい街つくろう！ 第13回浦添市まちづくりプラン賞

5月24日(土) 市役所9階ロビーで、第13回浦添市まちづくりプラン賞受賞団体活動報告会が行われました。発表した9団体の中から、今回は仲間自治会「がじまる会」の代表、又吉武市さんに、まちづくりへの思いをインタビューしました。



仲間自治会 がじまる会 又吉 武市さん (熱い思いを語る)

【がじまる会】
浦添グスクの遊歩道(てだこウォークのコース)を桜並木にし、自治会をあげて桜を植栽し維持管理をする。

Q 1番大変だったことは?
桜の木を植樹する場所の地盤が岩盤で固かったことです。しかし、造園業者・公園管理者の支援もあり、パワーショベルなどを借りることができたので、綺麗に植樹することができました。

Q 今回のプラン賞でやりがいを感じたことは?

一つの目標に取り組みむことで、地域の輪が広がりが交流が深まったことです。1回目の植樹祭のときは、子どもからお年寄りまで地域全体で盛り上がりました。そのため、当初30本の植樹を予定していましたが50本も植樹することが出来ました。今後、プラン賞に毎年応募して、一致団結して地域を活性化していきたいです。

Q 活動前と活動後で地域での変化はありましたか?

植樹前に地域全体で草刈やごみ拾いなどを行ったことで、地域住民の環境に対する意識が高まりました。以前は、歩きながらゴミを捨てる人もいましたが、現在はそのような人も減ってきてご覧のとおり遊歩道にごみが無い綺麗な状態が保たれています。

Q 今後の目標は?
3年間で150本、将来的に300本を植樹することです。また、仲間地区は市の「景観まちづくり重点地区」なので、植樹に併せて壁面緑化や草花も増やし環境づくりにも力を入れていきたいと考えています。景色を桜や花・緑でいっぱいにしていくことで、浦添グスクの遊歩道(てだこウォークのコース)の知名度を上げ、市の観光名所の1つとして県内外から多くの方に訪れてもらいたい。将来的には浦添市で1番の観光名所になりたいですね。

5年後には、浦添グスクの遊歩道が桜の木や花・緑でいっぱいになり、新しい浦添の名所となることでしょう。

第13回 まちづくりプラン賞受賞団体の活動報告



仲西自治会 小湾川周辺道路沿いの黒木植栽作業
屋富祖通り会 顔プロジェクト 店舗前14か所に似顔絵看板を作製
浦添市青少年健全育成市民会議 茶山第2公園の擁壁に壁画制作
大平自治会あじさい公園緑化同好会 小湾川沿いにツツワキ250本を植栽
浦添グリーンハイツ自治会 「地域の顔」となるシンボルタワー完成
牧港川に清流を取り戻そう委員会 水遊びができるように牧港川清掃活動
仲西中学校 花壇の整備と育てた苗を地域に配布
当山自治会 年末年始の期間中、当山小公園にてイルミネーションを実施

沖縄県で、2013年に刑法犯少年で補導されたのは1315人。そのうち中学生が占める割合は59パーセントです。皆さんはこの問題を解決するために結成された「おやじの会」をご存知でしょうか?

今回ご紹介する仲西中学校のおやじ達は、そんな子ども達に対し、説教をするのではなく、「こんばんは」「ご飯は食べたか?」「元気でやってるか?」という温かい声かけを行っています。

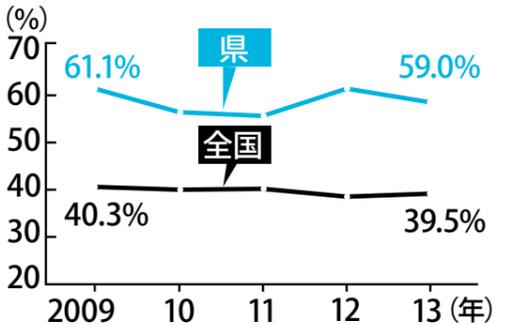


玉城 保さん
仲西中学校おやじの会会長
仲西中学校おやじの会は、仲西中学校に子どもを持つ父親を中心として、自治会員、教職員、OBなどが地域の子ども達を見守るために結成した組織。夜間パトロールや学校行事の運営補助などを行う。

子どもの父親から 地域のおやじへ

各中学校には、地域の子どもたちを見守る「おやじの会」があります。その中の一つ、来年に結成20周年を迎える仲西中学校の「おやじの会」に、活動への思いを語っていただきました。

刑法犯少年に占める中学生の割合



琉球新報より

心のよりどころを目指して

「おやじの会」は、学校行事の運営補助や、学校職員等を集めて互いの状況を報告しあう定例会のほか、毎月第3金曜日に地域パトロールも行っています。深夜徘徊をする子ども達を巡視し、犯罪や事件に巻き込まれることを防ぐためです。また、同時にその活動には「子ども達の心のよりどころをつくる」という役目もあります。

「現在の子ども達が徘徊する理由は複雑であり、帰らなさいという一言で片付けられる問題ではなくなっています。心のよりどころを失くしている子ども達も多いため、会話を通して彼らの生活状況や心の状態を把握していくことが何より大切です。」という玉城さん。気にかけている人が周りにいることを彼らに知らせることで心のよりどころをつくるのです。

暗かった表情が明るい表情へ

活動を行なう中でやりがいを感じる瞬間はいつですかという質問に対し、「結果がでるまでには時間がかかりますが、日々の声かけによって、彼らの暗かった表情が明るい表情に変わった時です。私達の活動によって、彼らの心のよりどころができた」と改めて感じる瞬間です。



▲互いの状況を報告しあうために、毎月行われている定例会

「間ですね。」と嬉しそうに玉城さんは語りました。現役のおやじも、ひと段落ついたおやじも、子ども達を思う熱い気持ちは同じ。そんなおやじ達がいることで、子ども達の未来はますます明るく希望に満ちたものになっていくでしょう。